

今号の
表紙作家

絵は後半生の友であり 目標である



風景を求めての旅先にて

平澤 薫 (高17回)

● ひらさわ・かおる

豊丘中学校出身。東北大学建築学科卒業。岡建築設計事務所に入社するも1年半で退社。その後、東京大学大学院都市工学科修士・博士(単位取得退学)。計画技術研究所(都市計画専門会社)に8年勤務後独立。(株)ユービーエムを設立・経営。20年後58歳で会社を畳む。水彩画を始め現在に至る。

大学卒業後は建築設計事務所就職。仕事をまかされるようになった途端に自分の仕事に疑問を感じるようになってしまいました。この仕事はその意図に反し

て都市及び環境を悪化させていることもあるのではないかと。そんなわけで、改めて都市及び都市計画を学びたいと考えようになりました。

約1年の浪人の後、大学院に入学。博士課程を終えたのが30歳。その後約30年間(後半20年間は会社経営)は都市計画を本業にしました。天職と思えるやりがいのある仕事でしたから、その中にとつぷりと浸かってきました。居住地域を始めてとする東京近郊及び地方主要都市の都市計画や日立、盛岡、釜石などの駅周辺整備事業、まちづくり等の計画立案・事業推進等が主要な仕事でした。

しかし時代の移り変わりとともに、仕事の規模・内容ともに縮小。やりがいも薄れ、煩わしい問題も増えてくる中で、都市計画の世界から離れても良いかも…と考えるようになってきました。

仕事後の生き方を考えながら本屋をブラブラしている時「水彩画プロの裏ワザ」(奥津国道)と言う本に出会いました。その表紙絵は、頑張れば自分でも描けるかもしれない…そんな気持ちを掻き立てるものでした。それで、絵を後半生の生きが

いにするのも良いか、まずは水彩画から始めてみるか、と思ったのです。

水彩画の世界は仰々しい団体もなく、自由で気楽にやれるような点が気に入りました。絵を始めると同時に、退路を断つ(途中でやめるとみっともない)気持ちで、ブログ「風景画の部屋」をスタート。これは自分の記録にもなり、ここを通じて絵の世界も広がっていったようです。

現在所属の「日本スケッチ画会」は、会長が私の絵を記憶してくれていたこと、「JWS」日本透明水彩画会」はブログをやっていた水彩画仲間が集まりから、「水彩人」との縁は「アドバイスをしてくれるような人がいたら…」と書いたことがきっかけでした。

絵描き生活も足かけ20年。その間、個展その他の展覧会も数えられなくなりました。水彩画教室も10年余を経過しました。絵をやってきたことで常に新しい友人ができ、次の目標が生まれます。

世間の煩わしさから逃れて…と密かに考えていた絵の世界ですが、「東日本大震災・原発事故」(コ罗纳騒動)など心惑わされる日々が現実です。それでも幸運に恵まれて何とかこれまでやってきました。改めて、絵を描きながら身近な人々とささやかな幸せを共有しつつ、残りの人生を静かに過ごしていけることを願っています。